

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人間福祉学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 講義科目について、ゲストスピーカーによる講義、あるいは現場見学、または学生参加・体験型の授業を1回は実施する。	→実績数。	A
2. 3学科とも、学科の目標に合致した実習教育とインターンシップを提供する。	→各学科による報告書の作成。	—
3. 講義、演習、実習、インターンシップ、卒業研究を連動させた授業が提供されているか、学生、および教職員による評価を実施する。	→報告書の作成。	—

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

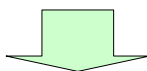
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.3.1	(方針) 学部教育目標を達成するために、実践現場と連動することによって教育を行なう。 (現状説明) 講義、演習、実習・インターンシップを連動させた授業形態の実施、オリエンテーションや履修心得を通じての学習指導の徹底化、講義科目におけるコメントカードの利用や学生同士のディスカッションの展開などを通じて、教育目標の達成に向けた授業方法や学習指導に努めている。
☆ 小項目6.3.2	(現状説明) 全ての授業についてシラバスを作成している。それに基づいた授業が展開されているかどうか、学生の授業評価を通じて評価を得ている。
☆ 小項目6.3.3	(現状説明) 各授業の成績評価方法・評価基準はシラバスで明示している。単位認定は科目毎に個別に行なっている。
☆ 小項目6.3.4	(現状説明) FD委員会や学科内や共通の従業科目毎での情報交換を通じて、授業内容や方法の適切さを検討するとともに、新たな授業方法の採用に努めている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	2009年度は、延べ52人のゲストスピーカーが講義科目で講義を行なった。
小項目6.3.2	
☆小項目6.3.3	
小項目6.3.4	研究演習 I において、より学生のニーズに沿った授業方法を採用できた。
その他	



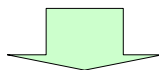
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆小項目6.3.3	
小項目6.3.4	科目担当者間で定期的な情報交換を行なう。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○「目標」2,3の「指標」は「報告書作成」よりも、実習教育やインターンシップの内容、時間数、参加者数等、具体的な数値に表わしやすい指標に置き換えることが期待されます。

【学内委員】

○効果が上がっている事項の6.3.4の記述は説明が不十分で、内容がわかりにくいです。

○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)において、水準評価として数値による評価がなされるものに注意してください。「3-1. 学士課程の教育内容・方法(2)教育方法 ②1年間に履修登録できる単位数の上限を50単位未満で設定している」については、本水準を満たしていない学年があり助言対象となる場合があります。改善に向けご努力ください。

○小項目6.3.1の現状説明における(方針)は不要です。現状説明に含めてください。

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、小項目についてもう少し詳しく現状説明されることを希望します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○小項目6.3.4(現状説明)

★ 複数担当性の共通の授業科目について、年度末には担当者による反省会を開催し、授業内容、方法、成果について意見交換している。年度初めには、複数担当の科目については、責任者が前年度の反省会をもとにしたオリエンテーションを行ない、一定レベルの教育が提供されるよう努めている。ただし、複数担当性・共通の授業以外の科目については、FD委員会を通じての研修や学生の授業評価による検証と改善に留まっている。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
